

# NO! リニア

No. 108

2019年9月8日

JR東海労働組合

## 大井川流出問題 全量回復は工事の後?!

9月5日付『静岡新聞』は、リニア・南アルプストンネル工事で流出した水は川に戻すことから河川流量は減少しないとされた環境影響評価（アセスメント）について、JR東海が流出した全量を大井川に戻せないとの方針と食い違ふと報じました。今年8月に行われた有識者・利水団体との意見交換会でJR東海は、「山梨県境付近の湧水は山梨県側に流出する。全量回復は約束できない」と見解を示しました。

これは、アセスで発表した約束事を反故にする行為だといえます。利水関係者からは「認可を受けた時に言っていたことは守るべきだ。JR東海は二枚舌で信用できない」と、怒りを露わにしています。

また、取材に応じた中央新幹線推進本部副部長は「全量回復は工事完了後との認識」と、とても信じられない発言をしました。トンネル工事で流出する毎秒2トンの水量は、大井川流域62万人の生活水とほぼ同じ水量です。流出した水のほとんどが山梨県に流れたとすると、62万人の住民や農家、企業の工業用水は、ほぼ無いに等しくなります。JR東海は「工事が終わるまで水は我慢せよ。住民の生活よりも会社の利益が優先」と言いたいのでしょうか？

このまま工事を続け、取り返しがつかなくなったら、どうするのでしょうか。リニア工事は直ちに中止すべきです。

アセス発表との相違は騙し討ちだ！  
工事期間中は水無し生活なのか？